



Asia Watch

日本経済新聞社「週末マネー教室」 三井住友DSアセットマネジメントの香港現地法人 村井CIOがアジア株式を語る

※当資料は「アジアリサーチセンター」の情報を基に作成しています。

2019年7月6日（土）に開催された、「週末マネー教室 イチから分かる資産づくり “今こそ”アジア投資が面白い」（日本経済新聞社・三井住友DSアセットマネジメント・三菱UFJ国際投信 主催）の第三部座談会に、スミトモ ミツイアセットマネジメント（ホンコン）リミテッド 最高投資責任者（CIO）の村井利行が登壇し、アジア株式の魅力について説明しました。本レポートでは、その講演内容の一部をご紹介します。



村井利行（香港在住11年目）

米国株式、欧州株式の運用を経験後、香港でアジア株式運用を担当。
「アジア株が世界で一番面白い」と熱弁。

主な発言内容

● アジア株式投資のポイント 値動きは大きいが中長期的に成長期待大

香港のデモの影響については、あくまで一時的なものに留まり、中長期的な視点でアジアが魅力ある市場であることに変わりはない。アジア株式投資のタイミングとしては、上下の値動きが大きいことから、時間と地域の分散を図ることが基本になる。

投資のリスクとしては、特に為替があげられる。米ドル上昇時にはアジア通貨が安くなり、資金が流出する傾向がある。ただし、現在はアジア各国・地域の外貨準備高が積み上がり、経常収支も概ね健全であることや、米国の金利が低下傾向にあり米ドルも強くないことなどから、それほど心配していない。

● 玉石混交の市場の中で、独自の視点で個別企業を見極め

アジア株式を個別企業でみると玉石混交の市場となっている。その中で、**企業の質へのこだわり、時価総額にこだわらない**、ことを独自の視点として持っている。具体的には、**(1) 企業価値を高める能力**（儲ける力、経営者の質、ビジネスモデル、業界の成長度合い）**(2) 株主への還元意欲**（国有企業、同族企業の中には上場意図が不明確な会社もある）を見極めることが重要。また、**(3) 時価総額にこだわらず**、企業の利益率などを考慮し、中小型株式へも投資している。

● イノベーション（リープフロッグ型発展）

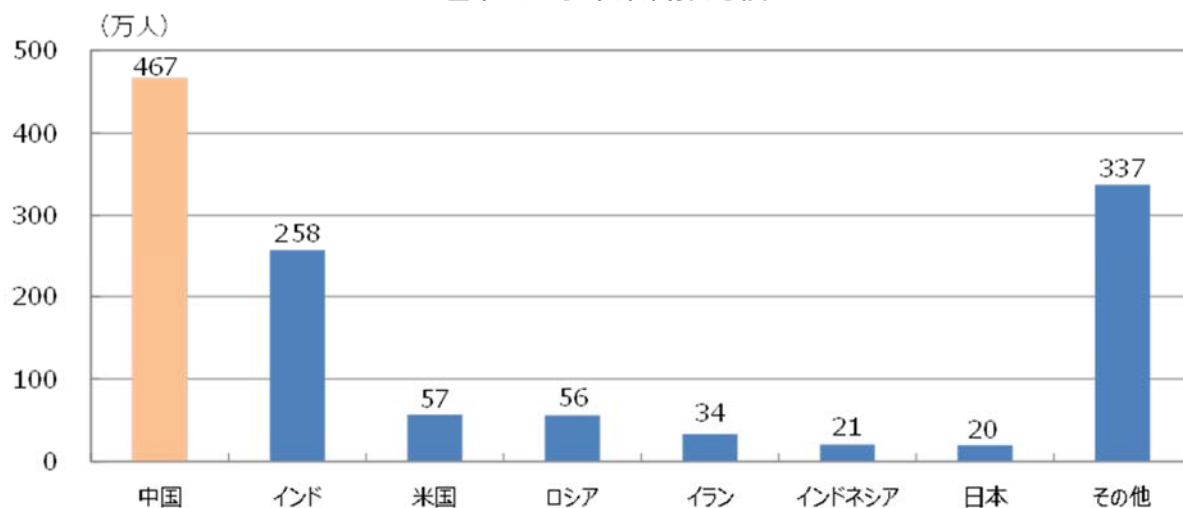
既存の社会インフラが整っていない新興国が、先進国の技術を取り込む際、途中の段階を飛び越えて、一気に最新の技術に達してしまう事象をリープフロッグ型の経済発展と呼ぶ。**アジアにはリープフロッグ型イノベーション発展の恩恵を受ける企業が多数あり、注目している。**

理系教育の充実がテクノロジー業界の発展へ

中国の理系の大学卒業生数は世界一

国際比較で、中国の理系（科学、技術、工学、数学）の大学卒業生数は世界一となっている。World Economic Forumのデータ（2016年）では中国が467万人と2位以下を大きく引き離している。また、新卒初任給の上位は、情報セキュリティ、IT・ソフトウェアの理系出身者が占めており、社会全体での理系教育の関心への高さがうかがえる。米中貿易摩擦の影響も比較的小さい教育関連などの産業には、今後成長の余地があると考えている。

理系の大学卒業生数比較



(注) データは2016年現在。

(出所) World Economic Forumのデータを基に三井住友DSアセットマネジメント作成

注目銘柄紹介① SUNeVision (サンイービジョン・ホールディングス)

香港



- ・時価総額 約2,180億円 (小型株) (15,842百万HKD、6/28時点の1HKD = 13.8034円にて換算)
- ・香港大手不動産会社 サンフンカイ不動産の傘下企業
- ・データセンターの管理・運営に特化しており、アジアのイノベーション (eコマース、ビックデータ、AI等) を支える
- ・安定したデータセンターに対する高いニーズ



(写真はイメージです)

(注) データは2008年1月末～2019年6月末。上記は例示を目的とするものであり、個別銘柄を推奨するものではありません。

(出所) Bloombergのデータ等を基に三井住友DSアセットマネジメント作成

この資料の最終ページに重要な注意事項を記載しております。必ずご確認ください。

上記は当資料作成基準日現在のものであり、将来の投資成果および市場環境の変動等を示唆あるいは保証するものではありません。将来予告なく変更される場合があります。

注目銘柄紹介② ICT（インターナショナル・コンテナ・ターミナル・サービス）



- ・時価総額 約6,000億円（中型株）（290,567百万PHP、6/28時点の1PHP = 2.0985円にて換算）
- ・世界19カ国、32カ所の港湾ターミナルを運営
- ・同族会社の2代目経営者の強力なリーダーシップで海外展開加速
- ・米中貿易摩擦激化の逆風下、アジア域内物流拡大（中国からアセアンへの移転など）の恩恵享受



（写真はイメージです）

（注）データは2008年1月末～2019年6月末。上記は例示を目的とするものであり、個別銘柄を推奨するものではありません。
 （出所）Bloombergのデータ等を基に三井住友DSアセットマネジメント作成

【重要な注意事項】

- 当資料は、情報提供を目的として、三井住友DSアセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。
- 当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。
- 当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。
- 当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績および将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。
- 当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。
- 当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。
- 当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。